

学力向上推進拠点校指定事業 初年度報告会 ①

本校は令和5年度から3年間、学力向上推進拠点校の指定を受け、以下の取組を進めています。

- ① 授業づくりの研究
- ② 組織づくりの研究
- ③ 学力向上の拠点としての近隣中学校との研修推進
- ④ ICT を活用した広報手段の開発

1 研究主題・副題

「意欲的に学び、思考力・判断力・表現力を育む授業の創造」

～効果的に ICT 機器を活用した授業改善を通して～

2 研究の目的

単元や授業過程において学習意欲を喚起する工夫を行い、「一人学び」や「協働学び」において効果的に ICT 機器を活用することで、意欲的に学び、思考力・判断力・表現力を高める授業を創造する。

3 研究の着眼

【着眼①】 単元や授業の過程における、学習意欲を喚起する工夫

【着眼②】 「一人学び」や「協働学び」における、自分の考えをつくり、広げたり、深めたりするためのICT機器の効果的な活用

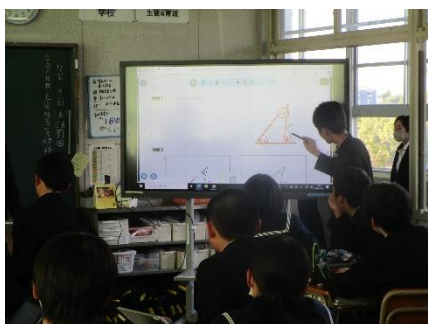
☆ 理科 1年 光と音(光の性質)

- 主眼 ガラスを通して斜めから物体を見ると物体がずれて見える理由を考える活動を通して、光の屈折による身近な現象を、規則性と関連付けて考えることができるようにする。
- 着眼 ① 生徒が「なぜ?」と思う光の屈折を見せる。また、光の反射が見せる現象を説明した手順を踏めば、屈折が見せる現象も説明できることを伝える。
② 学習内容をロイロノートに蓄積しておき、「一人学び」の際に、生徒がいつでも振り返ることができるようにする。
「協働学び」において、ロイロノートで友だちの考えを自由に見た後に、意見交流することによって、自分の考えを広げたり深めたりすることができるようにする。



☆ 数学科 2年 図形の調べ方(多角形の角)

- 主眼 へこみのある四角形の角度を求める方法を説明する活動において、補助線を引き平行線や角の性質を用いて説明することができるようにする。
- 着眼 ① 本時の学習の導入時に ICT 機器を用いて図形を動かし、前時の課題をもとに、どのような問題が考えられるかを問い、本時の課題へと導き、へこみのある図形の角度に対して疑問をもたせ、課題解決の意欲を高める。
② 前時までにロイロノートにまとめた学習内容を「一人学び」の際に、生徒がいつでも振り返ることができるようにする。
「協働学び」において、ロイロノートを活用することで、学級全体で複数の考えを比較させ、自分のものの見方や考え方を深められるようにする。



☆ 社会科 3年 消費生活と市場経済

- 主眼 「働き方推進法」を他者との議論や AI 内の議論を参考に多角的・多面的に評価することができるようにする。
- 着眼 ① 単元の導入において、保護者に労働に関するアンケートをとることで、働くということを身近なものとし、学習意欲を喚起する。
② 単元末の「協働学び」において、より意見が深まるようにするために、chatGPTを活用し、単元課題を解決するために必要なステークホルダーの議論を参考にする。また、それらの立場に問い返し等を行う。ただし、あくまでAIの声という側面があるため、どの情報を使うかは判断させる必要はある。

